

令和 7 年度 県立太田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校				
昨年度の成果と課題			重点項目	重点目標		達成状況
（成果） ・輝け！私たちの未来「探究プロジェクト」や「中高連携活動」などの上級生や他校生徒と交流する機会を設定し、生徒同士で自分の考えを論理的に話す・伝えることができる生徒が増えてきた。 保護者アンケート（教員は、生徒同士で話し合ったり、教員に質問したりする機会を設けている。R6 90％） ・すべての授業において、探究的な視点を取り入れた授業を実践し、生徒の授業満足度が高まっている。 保護者アンケート（教員は、生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考える時間を設けている。R6 90％） ・外部の大会等に積極的に参加したことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まってきている。 保護者アンケート（本校は、学校で様々な人とコミュニケーションを図る機会を設けている。R6 92％） ・学習支援ソフトやアプリを効果的に活用して、ICTを効果的に活用した教育活動を進めることができる。 生徒アンケート（教員は、タブレットやICT機器を活用して授業を行っている。R6 98％） 【課題】 ・学習における理解度に個人差が見られるため、習熟度や少人数など、生徒一人一人の理解度に応じた支援・指導を行う必要がある。 ・キャリアパスポートを活用し、小学校から連続したキャリア教育を推進し、自己理解を深めたり将来の目標を設定したりする場面を増やす必要がある。 生徒アンケート（教員は、将来の進路や職業について、生徒たちが考える機会を設けている。R6 85％） ・働き方改革への取組として、校務分掌の中を精選し、業務分担や協働体制を確立することで業務の効率化と平準化を図る必要がある。			・6年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現	・学習内容の習熟度に応じた学習や少人数指導等の充実を図る。		A
			・探究を軸とした学びの推進	・「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。		
			・シティズンシップ教育の充実	・建設的な話し合い活動や討論・討議の充実を図る。		A
			・ダイバーシティ教育の推進	・生徒会活動を活発化させ、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力の育成に努める。		
			・1か月平均超過勤務時間数の削減	・協力体制を再構築し、業務の効率化を推進するための具体的な方策と工夫を行うことにより、1か月平均超過勤務時間数を全職員が45時間以下にする。		B
			教職員の超過勤務時間45時間以下100%			
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	1 学習指導の技術を向上させ、主体的・対話的で深い学びを実現するとともに確かな学力の定着を図る。 2 ICT 機器を有効に活用して個に応じた深い学びの実現を図る。 3 自主的・自律的な生活態度を育成し、学習習慣の確立を図る。		(1)学習意欲を喚起し、対話的でわかりやすい授業の実践に努める。		A	・生徒が主役の授業づくりを心掛け、学習意欲が高まるような授業実践に努める・ ・学習状況調査の結果を分析・検討して、生徒の実態に応じた指導を行う。
			(2)自己管理能力を高め、家庭での学習時間を確保させ、基礎学力の向上と定着を図る。		B	
			(3)ICT 機器を活用し、学習の成果を可視化するとともに、個に応じた指導を展開する。		A	
			(4)生徒理解のための学習状況調査を実施し、課題を分析・検討して、具体的対策を講じていく。		B	
国語	1 言語活動を充実させ、言葉を正しく理解し表現する力の育成を図る。 2 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善に努める。 3 読書活動を推進し、語彙力を高める。		(1)言語活動を通して、主体的・対話的な授業の実践に努め、根拠や理由を明確にして互いの考えを伝え合う力を育成する。		A	・読書記録の定期的な集計ができるようにし、生徒の読書活動を推進できるように努める。
			(2)ICTを活用し、情報を収集・整理したり自分の考えをわかりやすく表現したりする力を育成する。		A	
			(3)中高の連携を図り、授業の相互参観や合同授業を行い、系統的な学びの研究と実践をする。		A	
			(4)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。		A	
			(5)知識や情報を得たり、考えを広げたりするために読書活動の充実を図る。		B	

別紙様式 2 (中)

教科	社会	1	学習意欲を喚起し、基礎・基本の定着を図る授業改善に努める。	(1) ICT 機器を積極的に活用し、授業への興味・関心を高めるとともに、理解の深化を図る。	A	A	・授業時間が少なすぎるので、カセット授業への定期的な組み入れ (1・2 学年) ・学習内容を精選し、グループ学習の時間の確保 ・学習習慣や学力の 2 極化に対応すべく上位層と下位層への指導
				(2) 家庭学習教材を準備し、各自で家庭学習を進められるよう支援する。	A		
		2	社会的な思考力・判断力・表現力を育てるための指導に努める。	(3) 小テスト等を活用し、単元ごとの学習到達目標を明確にして、確実な理解を促す。	A		
				(4) グループ・ワークや調べ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを推進する。	B		
		3	学習習慣の確立と自己管理能力の育成を図る。	(5) 学習計画の立て方や振り返りの方法を指導し、継続的な学びの姿勢を育てる。	A		
				(6) ポートフォリオや学習記録を活用し、目標設定と達成に向けた過程を重視する。	B		
	数学	1	個に応じた指導に努める。	(1) 小テスト等を利用して学習の理解度を把握し、きめ細かな指導を推進する。	A	A	朝の会の前や放課後の時間に勉強会を行い、基礎学力の定着や発展的な内容などが学べる場を短い時間でもつくり、生徒の学習をサポートする。
				(2) 少人数指導・習熟度別指導による生徒の実態やニーズに応じた指導を行う。	A		
				(3) ICT 機器を活用した個別指導の場を設定し、学習内容の定着を図る。	B		
		2	基礎力の向上を図るとともに、応用力の向上を図る。	(4) 問題演習の時間を設け、基礎計算力の定着を図る。	A		
				(5) 生徒の学力に応じて授業内容を精選し、発展的な内容を扱う。	A		
				(6) 生徒同士の話し合い・学び合いの場を作り、基礎・基本の定着を図る。	B		
	理科	1	基礎・基本の確実な定着を目指す。	(1) ICT 機器を有効に活用し、学習意欲を喚起する授業の実践に努める。	B	B	・茨城県北、常陸太田ならではの実験・観察を取り入れ、教科横断的な地域理解を深められるような体制を整えたい。 ・原子力専門家派遣事業や最先端科学ワークショップを企画し、科学的興味の向上に効果があったと考え、来年度以降も継続して企画したい。
		2	探究の過程を重視し、科学的思考力・表現力の育成を目指す。	(2) 実体験を伴ったわかりやすい授業を実施し、基礎学力の向上を図る。	B		
		3	理科がわかる喜びを実感する授業に努める。	(3) 少人数指導・習熟度別指導による生徒の実態やニーズに応じた指導を行う。	A		
	保体			(4) 実験・観察の結果を蓄積し、学習の振り返りを重視した授業実践に努める。	A	B	体力テストの A + B の数値が 37.3%であった。数年間、毎年体力の数値は低下している。日常的な運動習慣の確立が必要である。
		1	運動技能を高め、規律ある行動や態度を育成し、基本的生活習慣の確立を目指す。	(1) 整列、挨拶、時間、服装等の決まりや約束を守る態度を育成し、体力の向上並びに運動に親しむ資質や能力を高めさせる。	B		
		2	保健の知識を身に付けさせ、生活に生かせるようにする。	(2) 健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにさせる。	A		
	美術・音楽	1	表現力の向上を図る。	(1) 個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。	A	A	不登校生徒に対する全教科一致の共通申し合わせ事項の確認が必要と考える (美術)
				(2) さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。	A		
		2	鑑賞の基礎的能力を深める。	(3) 生徒の素直な見方を尊重しつつ、制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。	A		
				(4) 互いの作品を鑑賞するとともに、さまざまな展覧会の鑑賞も促す。	B		
		3	主体的・対話的な授業への取組に努める。	(5) 生徒が興味をもつような題材を設定して、意欲をもって制作活動ができるようにする。	A		
				(6) 自分の表現のテーマ (主題) を明確化させていき、それにふさわしい表現を工夫させる。	A		
	英語	1	基礎・基本の確実な定着に努める。	(1) 到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、適切な評価を行う。	A	A	・家庭学習の習慣化およびスタサブでの学習習慣の確立に向けた具体的な手立ての検討。 ・ICT 機器を活用し、実際に英語を使用する場面の設定。
				(2) 少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を検討する。	A		
				(3) 具体的な課題を設定し、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実させる。	A		
		2	家庭での学習習慣の定着に努める。	(4) 課題やプリントを定期的に点検し、生徒一人一人の実態に即したアドバイスをしなが、家庭学習の習慣をつけさせる。	B		
		3	生徒の総合的な英語の能力を伸ばす授業の改善に努める。	(5) 個々の生徒の、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、ALT との TT 授業を効果的に展開する。	A		
				(6) 授業と評価の一体化を図り、4 技能 5 領域をバランスよく育成する。	A		
				(7) 表現力を高めるパフォーマンステストを行い、観点別評価の研究を深める。	A		
				(8) ICT 機器を活用し、実際に英語を活用する場面や、異文化理解を進める機会を設定する。	B		
	技術・家庭	1	技術・家庭に関する知識や技能が身に付くように努める。	(1) 実験・実習の形態を工夫し、生活に必要な基礎的・基本的な知識の習得を目指す。	A	B	・生徒の実態や興味に応じた実習内容や学習形態の工夫を行う。 ・家庭に関する興味・関心を深めさせ、身近な生活に課題を見付け、主体的に学ばなくなるような授業づくりを行う。
				(2) 疑似体験などの体験学習を多く取り入れ、学習内容の理解・関心が深まるよう努める。	B		
				(3) 個に応じたきめ細かな指導を行い、さらなる学習意欲の向上を図る。	A		
		2	生活の課題を見出し、それを改善しようとする態度を育てる。	(4) 生活ハンドブックの利用し、家庭に関する興味・関心を深めさせる。	B		
				(5) ホームプロジェクトを通して身近な生活に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考えさせる。	B		

別紙様式 2 (中)

	庭	3 授業がわかる喜びを実感するよう改善に努める。	(6)各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める。	B		
教務部	教務	1 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。	(1)中高一貫6年間を見通した教育課程の工夫・改善に努める。	A	A	特色ある教育活動をテーマに学校運営に取り組むことができた。また、高校との連携行事も生徒の成長を促す上で、とてもよい機会とすることができた。HPでも学校生活の様子を随時配信し、開かれた学校づくりを行うことができた。
		(2)少人数指導・習熟度別授業・IT等の個に応じた指導のシステムの充実を図る。		A		
		2 特色ある学校行事の推進を図るとともに、近隣小学校への広報活動を行う。	(3)高校と連携し、異年齢交流を生かした学校行事の企画・運営に努める。	A		
		(4)定期的なホームページの更新や授業公開・説明会を実施し、学校のPR活動に努める。		A		
		3 授業時間の確保に努める。	(5)出張・年休等における授業の確保に努める。	A	A	学校説明会等の広報活動に中学職員全体で取り組むことができた。また、以前の来場者へメールで案内を出したり、新規進学フェスへの参加をしたりと新たなルートでの広報活動に取り組み、志願者数の増加に努めることができた。
		(6)学校行事等の能率的運営を図る。		B		
		4 広報活動の充実を図る。	(7)学校説明会の機会を増やし、小・中学校及び地域への広報活動に努める。	A		
		(8)併設型中高一貫校の説明・広報を進め、生徒の確保を図る。		A		
渉外部	渉外	1 創意工夫ある広報活動の推進を図る。	(1)学校を紹介するために、スクールガイド、ポスター、リーフレット、チラシ等を作成し、幅広い広報活動を進める。	A	A	・PR動画の作成等を行い、附属中の魅力をさらに発信する
		2 各分掌との連携を図り、学校PRに努める。	(2)教務部と連携し、学校説明会の企画・運営に携わり、本校のよさや特徴を周知する取組を積極的に進める。	A		
		3 生徒の主体的な活動を取り入れた広報活動を進める。	(3)ICT推進部と連携し、学校の様子や生徒の活動の様子などPRに効果的な素材を見つけ、HP等で効果的に発信する。	A		
		(4)生徒とともに創る活動を取り入れ、生徒の思いや成長、課題など、さまざまな視点からアイデアを生かした広報活動の充実を図る。		A		
探究推進部	探究活動	1 探究活動の充実を図る。	(1)各教科において「探究的な学び」を推進する。	A	A	・外部コンテストへの参加が、昨年度より増やすことができた。 ・次年度以降は、各学年と連携して、外部コンテストの入賞等ができるよう、生徒への働きかけを進めていきたい。
		(2)生徒が主体的、創造的、協働的に取り組む活動をすすめる。		B		
		2 中高連携での取組の充実を図る。	(3)中高の交流を取り入れた活動を推進する。	A		
		(4)成果発表の機会(探究活動中間発表会や中高合同成果発表会等)を設け、互いのよさを共有する。		A		
		3 地域や他校との関わりを大切に活動を進める。	(5)地域探究セミナーやフィールドワーク、出前講座などを積極的に実施し、主体的な探究活動の推進に努める。	B		
		(6)他校との連携プロジェクトにおける意見交換や交流などを通して、一人一人の深い学びの実現を図る。		A		
キャリアサポート部	進路指導	1 6年間を見通した進路指導に努める。	(1)高校と連携し、共通する進路関連行事を推進する。	A	A	・学年単位での講演会の必要性および内容の検討。 ・キャリアサポート便りの内容および発行時期の検討。 ・キャリアに関する生徒面談の設定。 ・新教研等の外部試験の必要性の確認。
		2 適切なキャリア情報を提供する。	(2)学年単位での講演会や職場体験学習、大学見学などを通し、キャリアへの意識づけを図る。	B		
		(3)保護者面談に合わせて「キャリアサポート便り」を発行する。		B		
		(4)「キャリアサポート部」のC1Assroomを通し、タイムリーなキャリア情報を生徒に提供する。		A		
		3 各部団体と連携する。	(5)ジュニア・アチーブメント日本によるキャリア教育プログラムを各学年で実施し、職業観や意思決定力を醸成させ、経営・経済への理解を深める。	A		
		(6)学力推移調査等のデータを活用して生徒の学習実態を客観的に捉え、「自ら進んで学習する生徒」が増えるように働きかける。		A		
		(7)定期的な個別面談を行い、生徒の要望、必要なサポートを調べ、全職員で連携し、支援する。		B		
特別活動	特別活動	1 生き生きとした中学校生活の確立を図る。	(1)HRや学校行事を通して生徒の主体的行動を支援し、自主性を育む機会をつくる。	A	A	・今年度着手していった部活動のあり方の見直しを進め、定着を目指す。 ・HR年間計画を作成・活用し、体育館を利用する行事などの機会をこれまで以上に用意できるようにする。
		(2)キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるように自主的・自発的な活動を進める。		B		
		2 生徒会活動の活性化に努める。	(3)生徒が学校行事の企画・運営に参画し、生徒のシティズンシップが育成できる行事になるよう支援する。	A		
		3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実を図る。	(4)HR年間計画をもとに、自主的・自律的な活動が充実して行えるよう支援する。	B		
		4 部活動の充実と発展に努める。	(5)部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体性を尊重した運営ができるよう支援する。	A		

別紙様式 2 (中)

部		5 中高一貫教育校としての活動の充実を図る。	(6)各種行事をはじめ委員会や部活動、生徒会活動などを通じて高校と連携を図り、中高一貫教育校としての活動を充実させる。	A			
ウェルネス部	保健厚生	1 生徒・教職員の心身の健康の増進に努める。	(1)生徒が主体的に体調管理をできる力を育てる。	A	A	・生徒の心身の健康問題について、教職員向けの研修会を充実させることにより、学校全体で問題を未然防止・解決する体制づくりを強化する。 ・高校と連携し、生徒の防災意識のさらなる向上を目指す。	
			(2)生徒の健康安全を重視し学習環境の安全点検を行い、事故防止及び保健室の効果的な運営に努める。	A			
			(3)性教育等、各種健康教育を実施し、健全な健康観をつくる。	A			
		2 学習環境の整備に努める。	(4)清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る。	B			
			(5)冷暖房器具の安全管理及び生徒の健康管理に努める。	A			
	生徒指導	3 防火安全管理を徹底する。	(6)綿密な計画を立て、生徒が安全な行動をとれるように指導する。	B	A	・スマートフォンやタブレットといった ICT 機器の適切な使い方や情報モラル教育を充実させる。また、家庭での使用やルールについては保護者にも協力を求めている。 ・不登校や別室登校の生徒に関する情報や教室に戻るまでの道筋を共有し、全職員でサポートする体制を構築する。	
			(7)より実践的な避難訓練の方法を工夫し、生徒の危機回避能力を高める。	A			
			1 基本的生活習慣の確立を図る。	(1)あいさつの励行と丁寧な言葉遣いを大切にしたコミュニケーション能力の育成に努める。			A
		(2)物品への記名や管理意識の高揚を促し、自己管理能力の育成に努める。	A				
		(3)携帯電話・スマートフォンの使用について、保護者と連携しながらマナーや適切な使用について徹底する。また、外部講師を活用した講演会等を実施し、安全な使用の仕方について意識付けを図る。	B				
	2 交通安全指導の強化に努める。	(4)定期的に全職員での立哨指導を実施し、交通ルールを遵守した登下校を身に付けさせる。	A	A			
		(5)自転車の定期点検を実施し、安全な運転と保険の加入を推進する。	B				
		3 教育相談の充実を図る。	(6)少人数の学校組織を生かした教育相談体制を整え、生徒の精神面のサポートを丁寧に行う。			A	
	(7)学校不適応や友人関係の悩みなど、さまざまなケースの状況を把握し、スクールカウンセラーとの連携を図り、早期発見・早期解決を図る。	A					
	(8)生徒指導部員会を開き、情報交換を密にして全職員で支援にあたる体制を整える。	B					
ICT推進部	情報	1 校内 LAN の構築とその利用を図るとともにセキュリティの確保に努める。	(1)授業・HR 単位での ICT 機器利用の支援を行うとともに、情報モラルの徹底や情報セキュリティへの意識とスキルの向上を図る。	A	A	・ホームページ更新を含めた業務の分散化	
		2 ホームページの更新及び内容の充実を図り、活気ある本校の現状を発信する。	(2)学年や渉外部、高校と連携しながら、定期的にホームページを更新し、内容の充実にも努める。	A			
		3 ICT 機器の維持・管理を徹底する。	(3)学校事務や ICT 支援員と連携し、ICT 機器の適切な維持・管理に努める。	A			
		4 校内研修会を通して、知識・技術の支援を行う。	(4)生徒向けの情報モラル研修会の企画・運営にあたる。	B			
	図書	1 図書館資料の充実を図る。	(1)学習活動や読書活動に活用できる図書を定期的に選定する。	A	A	・授業の際に図書室を活用し、知識を深められるようにする。 ・図書室の活用を積極的に生徒たちに呼びかけていく。	
			(2)蔵書整理の基準により、生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する。	A			
			2 学習・情報センターとしての図書館の利用促進に努める。	(3)書架の配架の工夫等により、様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める。			A
			(4)各教科・各分掌との連携により、「学習・情報センター」としての機能を向上させる。	B			
			3 図書委員会の活動の充実を図る。	(5)「ビブリオバトル」や「読書月間」の実施など、図書委員の主体的な活動を促進する。			A
				(6)「図書館便り」「図書館報」等の活動を通して、読書活動を推進する。			B
第1学年		1 中学生としての自覚をもたせ、基本的生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(1)家庭との連携や教育相談を推進し、楽しく充実した学校生活の実現に努める。	A	B	・時刻を守る意識が高まってきた。一方、主体的に活動できる生徒とそうでない生徒との二極化が見られる。集団全体の意識を高めていく必要がある。 ・学習への取り組みについても二極化しており、学習の習慣がついている生徒は学力向上が見られているが、習慣づいていない生徒は早い段階での習慣化が必要である。 ・学習計画表を用いた試験前の学習計画を立てたが、十分な活用ができなかった。学力につなげるためにも、家庭とも連携しつつ、学習計画表は今後も継続していきたい。	
			(2)生徒一人一人の役割を明確にし、責任をもって活動できるようにするとともに、達成感や自己有用感を高められる支援に努める。	B			
			(3)担任・副担任・学年主任の学年団で、生徒一人一人の特性を理解しながら、生活および学習支援をする。	A			
			(4)普段の生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。	B			
		2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図るとともに、将来への夢や希望をもたせる。	(5)少人数学習、習熟度別学習、TTを導入し、個に応じた指導を徹底する。	A			
			(6)ICTによる学習支援ソフト等を効果的に活用し、家庭学習の習慣化や弱点の強化を図る。	B			
			(7)e ポートフォリオと学習計画表を活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。	B			
		3 部活動や学校行事、特別活動等において、主体的に活動しようとする態度を育てる。	(8)部活動・学校行事・特別活動等に意欲的・主体的・自律的に活動できるよう支援する。	A			
			(9)集団への帰属意識を高め一人一人が自己有用感をもちながら意欲的に活動できるよう支援する。	A			
				A			

別紙様式 2 (中)

第2学年	4	身の回りの事象に対する興味関心を高め、自ら課題を解決し発信する力を育てるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	(10) 地域素材を活用した探究活動の充実に努める。 (11) 英語科指導や他の教科、領域、特別活動等の場で英語を使った会話を日常的に行う。		A	A	・登校できない生徒が複数いる。安心できる環境づくりを行いたい。 ・昨年度までを踏襲した例年通りにプログラムされた計画通りに、年間の行事を滞りなく実施することができたが、現学年の現学年による現学年のためのプログラムを計画し、より現学年の生徒の力を伸ばしていきたい。 ・報告、連絡、相談、確認といった学年経営として必要不可欠な基本の手順が完全に欠如したまま構築することができない1年間であったため、次年度に向けた改善、再構築が最大の課題である。 ・総合的な学習の時間を中心として、教科横断的な計画のもと、「情報収集・処理能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「ディスカッション能力」を高めるための、一貫したプログラムを構築していきたい。
	1	集団の形成者としての自覚をもたせ、基本的生活習慣を定着させるとともに、何事にも主体的に取り組み、責任ある言動ができる態度を育てる。	(1) 家庭との連携や教育相談を推進し、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を築き、楽しく充実した学校生活の実現に努める。		A		
			(2) 生徒主体の活動の場を設け、生徒一人一人の個性の伸長と自己有用感を高める支援に努める。		A		
			(3) 個を大切にす支援を継続的に行い、生徒が主体的に活躍できるHR運営をする。		A		
			(4) 学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、当番活動や委員会活動を通して、集団の一員としての責任感や協働する力を育む。		B		
	2	主体的に学び、それを生かそうとする態度を育成するとともに生きて働く知識・技能の習得を図る。	(5) 少人数学習、習熟度別学習、T Tを導入し、個に応じた指導を徹底する。		A		
			(6) I C Tによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。		A		
			(7) e ポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。		A		
	3	部活動や学校行事、生徒会活動において、主体的に活動する態度を育てる。	(8) 特別活動（部活動・学校行事等）・に自主的・実践的に参画できるようにする。		A		
			(9) 様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。		A		
4	実社会や実生活の事象を自己の生き方と関連づけ、自ら課題を解決し発信する力を育てるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	(10) 職業調べや職場体験を通して、自己のキャリア形成を図る。		B			
		(11) 教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での会話能力の向上を図る。		A			
第3学年	1	豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努め、主体的に取り組む態度と他者との協働により創造的に解決していく力を育てる。	(1) 家庭との連携を密にし、教育相談を効果的に取り入れながら生徒との信頼関係を築き、一人一人の実態に合った支援をしながら、充実した学校生活の実現に努める。		A		
			(2) 生徒一人ひとりの思いを大切に、クラス全体と生徒個人に対し、努力や活躍を認める声かけをして、自信をもって取り組ませながら、自己有用感を高める支援に努める。		A		
			(3) 生徒の実態に応じた支援を継続的に行い、生徒同士が認め合い自分のよさを生かしながら、全ての活動を自分事として捉え、主体的に活躍できるHR運営をする。		A		
			(4) 学校生活の中で、時間の遵守と挨拶の励行に努める。また、様々な活動を通して、話す・伝える力を高め互いを尊重しながら協力・協働する力を育む。		A		
	2	探究を軸とした創造的な学びの実現を図り、自ら課題を発見し解決していく力を育てる。	(5) 少人数学習、習熟度別学習、T Tを導入し、個に応じた指導を徹底するとともに、探究を軸とした学びのスタイルの確立に努める。		A		
			(6) I C Tによる学習支援ソフト等を、目的をもって効果的に活用し、個に応じた学習や学びの共有化を図る。		A		
			(7) e ポートフォリオを活用し、学習の蓄積を図ることにより、計画的な自主学習が進められるよう努める。		B		
	3	部活動や海外研修、学校行事、生徒会活動において、多様な価値観に触れながら、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。	(8) 部活動・学校行事・特別活動等に積極的・主体的に参画できるようにする。		A		
			(9) 様々な集団で協働する体験を通して、一人一人が自己有用感を高めながら自己実現を図ることができるよう支援する。		A		
			(10) 実践的・体験的な活動を通して、今後の自分を見つめ、自己のキャリア形成を図る。		A		
			(11) 教科横断的な学習を行い、国際理解を深め、外国語での対話力の向上を図る。		A		

※ 評価規準： A 十分達成できた B おおむね達成できた C 不十分である